

学びを変え、 未来をつくりだす力を 育むための10冊

新しい社会における学びは、いかにあるべきでしょうか。
今号で紹介した事例の理解を深める10冊を選びました。



10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

1 『思考と言語 [新訳版]』
思考と言語に関する心理学的研究の名著。発達の的に思考が言語と独立していることを前提とし、年齢とともに発達段階を経るにつれ、その成長は互いに影響を及ぼしあうと説く。また、児童期における言葉の意味の発達の基本的道程を説明するとともに、子どもが獲得する科学的概念や自然発生的概念の比較研究を展開。まさに読み応えのある一冊。
ヴィゴツキー=著 柴田義松=訳
新読書社 / 2001年



**2 『学習する学校
——子ども・教員・親・地域で未来の学びを創造する』**
学校を「教える組織」から「学ぶ組織」に変える教育改革が世界的に広がっている。多分野の実践家チームによる本書はそのバイブル的一冊。教室・学校・地域コミュニティを包括的に捉え、それぞれの構成員がいかに協働すべきかを論じる内容は、豊富なエクササイズやツールなどの提案もあり、小手先の制度改革論にはない説得力をもつ。
ピーター・M・センゲほか=著 リヒテルズ直子=訳
英治出版 / 2014年



**3 『世界はひとつの教室
——「学び×テクノロジー」が起こすイノベーション』**
文理にまたがる幅広い学問分野のレッスンビデオ4000本以上を擁し、創設5年で年間600万人(過去400年でハーバード大学に通った人数の10倍超)が学んだカーンアカデミー。良質の教育を無償ですべての人にという理念を創設者自ら振り返る本書は、インターネット技術が切り拓く新しい教育システムの可能性を雄弁に物語る。
サルマン・カーン=著 三木俊哉=訳
ダイヤモンド社 / 2013年



4 『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』
AI(人工知能)は読解力に弱点があり、人間を上回ることはない。しかし、いまの中高生の半数以上が教科書を正確に理解できず、3割はまともにも読むことすらできないことが明らかに。AIには代替できない人間の強みである読解力が弱体化している危機を前に、いかなる教育を行うべきか。学びの未来を考えるうえで、念頭におくべき一冊。
新井紀子=著
東洋経済新報社 / 2018年



**5 『最強の経験学習
——ハーバード大卒の教授が教える、コルブ式学びのプロセス』**
組織行動学者であり、経験学習理論の考案者コルブらによる解説と実践の書。「経験→省察→概念化→実践」という4段階の学びのプロセスを知り、それを意識的にコントロールするための9つの学習スタイルを提案。「経験こそが“唯一”の教師」と言い切るだけあり、最終項目のチェックリストに至るまで分かりやすく整理されている。
デイヴィッド・コルブほか=著 中野真由美=訳
辰巳出版 / 2018年



**6 『アメリカの少年野球 こんなに日本と違ってた
——シャイな息子と泣き虫ママのびっくり異文化体験記』**
レベルや目的に合わせて頻りにチームを移籍し、時には高額のプライベートレッスンも受ける。日本とはあまりにも違うアメリカの少年野球の世界に飛び込み奮闘する家族の様子を、母親の視点から描いた一冊。ドライな競争社会だからこそ、自信を持たせることを第一に考えるアメリカ流の子育てに学ぶべき点も多い。
小国綾子=著
径書房 / 2013年



7 『心理学的経営——個をあるがままに生かす』
リクルート創業メンバーのひとりであり、現実の組織における人間の「感情」や「個性」を追究した大沢武志氏による経営論。ハズバークをはじめとする心理学者の実証的な研究を現代に合わせて論じており、実務にどう応用したのか理解できる。ありのままの人間に対する理解をベースにしたマネジメントは、年月を経ても色あせない。
大沢武志=著
PHP研究所 / 1993年



**8 『幼児教育へのいざない [増補改訂版]
——円熟した保育者になるために』**
「子どもを見る」ということはどういうことなのか。マルクスの「具体」と「抽象」をヒントに、関係論的発達論を展開し、子どもの発達は価値中立的ではなく文化的価値づけのなかにあると主張する。初版に、認知科学の先端の試案「アートの学び」を増補。今号で紹介したレジョ・エミリアについてもふれられており参考になる。
佐伯胖=著
東京大学出版会 / 2014年



**9 『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?
——経営における「アート」と「サイエンス』**
MBA(経営学修士)に代わり、MFA(美術学修士)を目指すビジネスエリートが増えている。企業のビジョン、行動規範、経営戦略、表現のすべてに「真・善・美」に基づく美意識が問われるとの背景がある。サイエンス偏重の姿勢から、アーティストとしてのビジネス追求へという主張は、佐宗氏の「妄想」を育む学びにも通じる。
山口周=著
光文社新書 / 2017年



10 『経験と教育』
近代の学校は、政治的・経済的に生徒を一定の秩序にはめ込む制度であり続けてきた。これに対し、一切の主義や先験的基礎付け論を廃し、経験の連続性と相互作用を軸とした教育実践理論を提唱したのがデューイである。APUの出口学長が主張する「個性派コース」の必要性も裏付ける内容は、古典でありながら最先端としての輝きを失わない。
ジョン・デューイ=著 市村尚久=訳
講談社学術文庫 / 2004年

